

貴重な活字研究の展示会！

女子美術大学所蔵「弘道軒清朝体活字の世界」

現在、女子美ギャラリーニケ(杉並区和田1-49-8)にて、「弘道軒清朝体活字の世界」という展示会が開かれています。「弘道軒清朝体活字」関連資料は、明治初期の活字製造プロセスを残す貴重な資料のひとつであるにもかかわらず、これまで包括的な調査、研究が行われたことはありませんでした。このほど、女子美術大学がこの「清朝体活字」を調査し、学外の人にも自由に閲覧できるようにデジタルアーカイブが完成しました。

10月8日(水)まで、女子美ギャラリーニケにて、「弘道軒清朝体活字の世界」という展示会が開かれています。

活版印刷の登場は、人類史上の一大トピックといえるにもかかわらず、日本の近代的な活版印刷技術の黎明期における資料は非常に乏しく、研究が十分に進んでいるとはいえません。福沢諭吉の「学問のすゝめ」でさえ、いったいどの活字を使ったのかわからないのが実情です。

女子美術大学が所蔵する「弘道軒清朝体活字」は、明治9(1876)年に、活版製造所「弘道軒」で製造が開始された楷書体活字です。書籍印刷が整版から活版に移行する時期(明治10年代半ばから20年代)に東京日日新聞の本文用書体として使用されるなど、活字として完成度の高いものであるにもかかわらず、これまで包括的な調査が行われたことはありませんでした。

平成19(2007)年、株式会社イワタ活字の活版部門廃業時に女子美術大学がこの「弘道軒清朝体活字」を購入したのを機に、明治初期の活字製造プロセスを資料として残すべく、平成23(2011)年、研究を始めました。3年の歳月をかけ、このほど学外にも広く公開するためのデジタルアーカイブが完成しました。



展示会では、備え付けの4台のパソコンで、活字の文字種、サイズ、保存状態、材質などのデジタルアーカイブを自由に閲覧することができます。また、木のケースに納められた100点ほどの活字、金属を溶かして活字を作るための「手回し式鋳造器」、「印刷機」、活字などを写したパネルなどが展示されています。

関連イベントとして、シンポジウムも開かれます。詳細は別紙参照。

「弘道軒清朝体活字の世界」 展示会

【開催期間】9月12日(金)～10月8日(水)
午前10時～午後5時 日曜、祝日休廊

【場 所】女子美ギャラリーニケ
(杉並区和田1-49-8 女子美術大学 杉並キャンパス1号館1階)

【費 用】無料

【報道機関 問い合わせ先】

女子美ギャラリーニケ 電話5340-4688

杉並区役所広報課 電話3312-2111(代表)



26.9.24
杉並区広報課

関連イベント シンポジウム

1. 基調講演「弘道軒清朝体活字の周辺」 講師 内田 明氏
2. 「弘道軒清朝体活字」関連資料調査チームによる調査報告
3. 質疑応答フリーディスカッション

招待パネリスト

小宮山 博史 氏 (書体デザイナー)
祖父江 慎 氏 (ブックデザイナー)
内田 明 氏 (19世紀日本語印刷文字史研究者)
高内 一 氏 (元岩田母型製造所社長)
伊藤 伸一 氏 (元三省堂印刷 活字鑄造研究者)

シンポジウム当日のみの特別資料の公開が予定されています。

- 【日時】9月27日(土)
午後2時～午後3時半
- 【場所】女子美術大学 110周年記念ホール
(杉並区和田1-49-8 女子美術大学 杉並キャンパス1号館1階ギャラリー隣)
- 【費用】無料